



北里大学同窓会 栃木県支部

ニュースNo.26 (2018年5月1日)
第6回定期総会、支部講演会



栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

北里大学同窓会栃木県支部 第五回定期総会・講演会・懇親会開催

北里大学同窓会栃木県支部

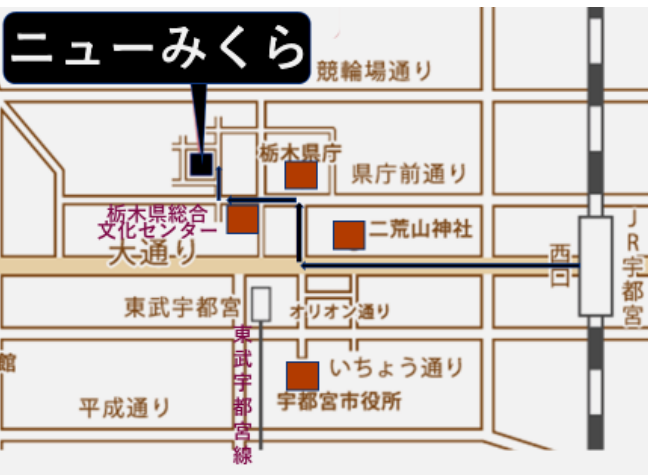
支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の第五回定期総会・講演会・懇親会を以下のように開催します。多くの支部会会員の皆様のご参加をお待ちしています。

出欠は5月末日までに同封の返信ハガキでお知らせ下さい。

日時：2018年7月7日(土)

会場：地方職員共済組合栃木県職員会館
ニューみくら



〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和 1-3-6
TEL 028-622-1093 / FAX 028-625-9263

第五回定期総会

午後3時～3時30分

議題

- ① 活動報告
- ② 会計報告
- ③ 次期活動計画

- ④ 次期運営委員の選出
- ⑤ その他

支部講演会 午後4時～5時

講師：北里大学名誉教授 檀原宏文 先生
(元北里大学薬学部微生物学教授)

演題：「小国から熊本へ、
北里柴三郎が歩いた道をたどる旅」

懇親会 午後5時30分～7時30分

参加費；40歳以上5,000円、40歳未満3,000円

「小国からのレポート」 北里柴三郎の歩いた道をたどる旅 北里大学名誉教授 檀原宏文

北里大学同窓会栃木県支部の皆様

はじめまして、今日は滝 龍雄先生のご紹介により栃木県支部の皆様にお会いする機会を頂きました。北里研究所(1986-1992)と北里大学(1992-2010)で24年、そして定年から8年、ずっと考えている学祖北里柴三郎のことをお話しさせて頂きたいと思っています。よろしくお願ひします。

はじめに

朝、小国(おぐに)の町は深い霧に包まれています。それが時間とともに晴れ上がっていく時、勤勉な小国の人の一日はもう始まっています。5歳の北里柴三郎は寺子屋に通い始めます。やはりこのような霧の中を坂の上の寺子屋まで歩いたのでしょう。8歳からは親元を離れ、叔母の嫁ぎ先や母親の里に預けられ、そこで育てられました。そして14歳を迎えようとする秋、熊本に向けて小国をあとにします。ここから北里柴三郎の本格的な修行が始まりました。

今回の小国行き(平成24年5月7日~5月13日、2012年)には2つの目的がありました。

一つは、北里柴三郎が少年期を過ごした場所をすこし時間をかけて歩いてみることでした。時代は違うが北里柴三郎と同じ場所で同じ空気を吸ってみたいと思ったからです。そして北里柴三郎が生まれた「小国」という町と「北里氏」という家柄を感じてみたいと思ったのです。

もう一つ、今回どうしてもやりたかったこと、それは北里柴三郎が歩いた小国から熊本への道を私もこの足で歩いてみることでした。見慣れた村を抜け、冬の到来が間近な阿蘇の外輪山を駆け下りるとき北里柴三郎は何を考えていたのでしょうか。そして豊後街道に出て細川公 54 万石の天守閣を遠くに見た少年北里柴三郎の気持ちを追体験してみたいと思いました。

私がどうしてこのように「小国」という町と「北里氏」という家柄にこだわったのか。その理由は青年期に撮った写真に見る北里柴三郎の顔にあります。港区の白金キャンパスにある北里本館、その一階の北里柴三郎記念室に入ってすぐ右にある1枚の集合写真がそれです。北里柴三郎はどこに写っているのか。いつの時代にも変わらない若者らしい清々しい顔が並んでいます。しかし、突然、周囲を圧倒する顔に目が留まります。これが私の脳裏から長いあいだ離れないでいた北里柴三郎の顔でした。

右の写真はそれを切り出したものです(図1)。熊本医学校時代(20歳頃)のものでした。周囲を圧倒していたのはその「目」と「口元」であり、意思の強さと強い決意とを発散させています。この顔は我々が見慣れた学祖北里柴三郎とは明らかに違って見えます。



図1 青年期の北里柴三郎
意思の強さを感じさせる

後年、「終始一貫」と座右の銘に書いてそれを貫き通した北里柴三郎の原点はここにあったのではないかと。そして北里柴三郎をこのような意思の強い青年に育てたのは「小国」という土地であり、「北里氏」という家柄であるように思えてきたのです。その土地と家柄を背負って北里柴三郎は阿蘇の外輪山を駆け下りたのではないかと考えたのです。

今回、小国にお邪魔して地元の「石櫃会(いしびつかい)」の皆さまにお会いできたのは幸せでした。そのとき、長年にわたってこの郷土史研究会が収集、調査した「小国」や「北里氏」の歴史をお聞きすることができま

した。また研究会の皆様は、かつては北里柴三郎も歩いた道、しかしいつのまにか草木に埋もれてしまっていた昔の道を丹念に調査して洗い出してくれました。そして、小国町役場や財団法人「学びやの里」の方々との古道を一緒に歩けたこと、これは今回の旅行での最大のよこびでした。

そのとき波多辺(はたべ)の原野を歩きながら聞いた北里光男さんの「小国セレナーデ」はだんだんと遠くに離れていく湧蓋山(わいたさん)を背中で見ながら熊本をめざす北里柴三郎の気持ちを伝えてくれているようでした(図2)。



図2 遠くにうっすらと湧蓋山が見える

新しい培地に置かれた細菌は長い時間をかけてこの培地の栄養を吸いながら分裂の準備をします。そして栄養がエネルギーに変換されるのを待って細胞は分裂を始めます。一度分裂が始まるとあとは水が流れるように分裂と増殖は進行します。問題はどれだけの水をどこまで持ち上げられるかということですが、この水を持ち上げるエネルギーは培地の栄養から供給されます。このエネルギーが多いほど大量の水を高いところまで持ち上げることができ、その結果、分裂と増殖は強く、そして長く進行するのです。

北里柴三郎が吸った空気を吸ってみて、北里柴三郎が歩いた道を歩いてみて、見えてきたものがあるような気がします。それは、北里氏一族を始め多くの人々が守り育ててきた国、小さいけれど豊かな国、この小国からは多くの偉人が育っていったように、北里柴三郎も小国に育てられたのではないかと気がしました。

小国という培地に落とされた小さな生命はそこで吸った栄養を大きなエネルギーに変えました。そしてこのエネルギーがあったからこそ、湧蓋山に発した水が北里川となって勢いよく下り、筑後川から海に出るように、北里柴三郎も熊本へ、東京へ、そしてベルリンへと大きく羽ばたいていったのではないのでしょうか。

北里柴三郎が歩いた道をたどる旅

2012年5月	調査・訪問など	宿泊
7日(月)	移動(羽田空港→大分空港→大分駅→由布院駅)	由布市
8日(火)	加藤家跡(大分県玖珠町)、小国町役場(小国町)	小国町
9日(水)	北里大社と北里家ご先祖の墓(小国町)を参拝し、橋本家跡(南小国町)、咸宜園跡(大分県日田市)を訪ねる	小国町
10日(木)	北里柴三郎生家(小国町北里)～小豆谷(阿蘇市)を歩く	阿蘇市
11日(金)	小豆谷～肥後大津駅(大津町)を歩く	大津町
12日(土)	肥後大津駅～熊本城時習館後(熊本市)を歩く	玉名市
13日(日)	移動(玉名市→熊本市→熊本空港→羽田空港)	

Relay for Life JAPAN 2018 in Tochigi に参加しませんか

北里大学同窓会栃木県支部 支部長 滝 龍雄

皆さん、リレー・フォー・ライフという活動をご存知ですか？最初はアメリカの外科医ががん患者の治療やがんの研究に為の寄付金を集めるために始めた運動が切っ掛けになっています。

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、がん征圧をめざすチャリティー活動であるリレー・フォー・ライフは、Save Lives を使命とし、がんの告知を乗り越え、生きていることを祝福し(祝う Celebrate)旅立った愛する人たちを偲び(しのぶ Remember)がんに負けない社会を作る(立ち向かう Fight Back)ことをめざしています。栃木県でも2012年に第一回を宇都宮城址公園で開催し、6回を数えます。

栃木県支部は2012年の第一回からこの催しに参加しており、今年もRelay for Life JAPAN 2018 in Tochigiに参加します。24時間リレー・ウォークもあります。短時間の参加でも可能ですので、参加してみませんか？参加費等は支部で負担します。

開催日 2018年9月8日正午～9日正午

会場 壬生町総合運動公園陸上競技場
壬生町大字壬生甲 3828 番地

チーム・リーダー；滝 龍雄

サブ・リーダー；芝田 周平

参加申し込み：チーム・リーダーかサブ・リーダーに直接申し込んで下さい。

滝：tatabox@kitasato-u.ac.jp 090-6533-1555

芝田：shibat01@pref.tochigi.lg.jp



北里大学同窓会栃木県支部 支部長 滝 龍雄
紅緑会栃木県支部 支部長 兼丸卓美
毎回、参加した皆様に好評を得ています福島競馬場観戦ツアーを今年も、獣医学部同窓会(紅緑会)栃木県支部との共催で行います。

開催日 2018年11月10日(土)

世話人 齋藤けさよ

参加を希望する方は、世話人まで直接ご連絡下さい。競馬場内の来賓席の定員(40名程度)の都合もあり、申し込み順とさせていただきます。

参加される方には、後程世話人から詳細をお知らせします。尚、来賓室にはドレスコードがあります。

参加申し込み

齋藤：kesayottchanika@docomo.ne.jp

2019年 公開講演会のお知らせ

北里大学同窓会栃木県支部 支部長 滝 龍雄

北里大学獣医学部同窓会紅緑会栃木県支部

支部長 兼丸卓美

2019年の公開講演会は、紅緑会栃木県支部との共催で以下の日程で開催します。ニュース No.25でお知らせしたとおり、服部先生は猫に関する著書も多く、若き“猫ドクター”としてマスコミでも有名な方です。

2019年7月7日(日)

東京猫医療センター院長

服部 幸 先生(2003年獣医学科卒)

(会場、開始時間、演題等の詳細は次号でお知らせします。)

新年会に参加して

2001年卒理学部化学科 宮澤俊輔

2018年同門会栃木県支部新年会に初めて参加させていただきました。滝支部長はじめ、執行部の皆様、こんなにも素敵な会に参加させていただきありがとうございました。

私は、2001年に大学卒業後、製薬会社に就職しました。実は最初の赴任地が栃木県で、宇都宮に住んでいたのは5年間ですが、同門会に参加したことはなく…。その後神奈川に転勤になりました。神奈川では母校である北里大学や東海大学を担当し、11年が経ち、昨年10月より栃木県に戻ってまいりました。今回は単身赴任ですので、参加させていただいた新年会のように世代を

超えて交流できる場は、とても貴重でたくさんの刺激を受けることができました。👉1

福島先生より、“ただ参加するだけでいいんだよ”と声をかけていただき、その言葉を鵜呑みに出席いたしました。受付では、“若い方は参加費半額でいいのよ”と言われ、若くなんですけど・・・と返答したものの、流されるままにお支払いしました。受付からアットホームな雰囲気、会場に入るまでの不安を吹き飛ばしていただきました。👉2



両福先生（福田先生と福島先生）に挟まれて

会の途中で催されるビンゴ大会では、周りがどんどん北里大学グッズを手にしていて、袋から取り出すたびに、こんなグッズもあるのかと驚きながら、自分も何か当たるのかなど期待していました。今回私は、なんと単身赴任の味方「八雲牛ビーフシチューレトルトパック」をいただくことができました。八雲牛のことを全く知らなかったの、相模原キャンパス以外のことを想像するだけで、北里大学の大きさを感じることができました。👉3



(新年会終了後の集合写真です。)

参加された方々とのお話の中で、様々な講演会、福島競馬場の鑑賞会が催されたりと、同門会はイベントが多く、それが故に絶えない会話とアットホームな雰囲気が満ちており、本当に今回参加してよかったと思えました。👉4

在学中は体育会サッカー部に所属しており、OB会にも日程があれば参加しています。夏合宿は、茨城県で実施することが多く、宇都宮からならアクセスが良いので、また学生の気持ちに戻り参加したいと思えます。

これからも卒業した後も感じられる母校とのつながりを大切にし、次回の支部会にも参加させていただきたいと思えます。こんなに👉が多い同門会の益々の盛況をお祈りしています。

支部会員近況 (新年会出欠ハガキより) (敬称略)

坂井 広人 (2002F) : 栃木県立博物館で学芸員としてキノコ、地衣類を担当しております。H29 年度は「ミクロの世界」展を担当しました。栃木県立博物館にお越しください。

村上昌久 (1970PP) : リヨン社発行村上昌久著「自分でできるウマブドウ健康法」を二見書房 TEL 03-3511-8855 より発売中です。是非およみください。

阿部菜穂子 (1989PP) : 佐野市の薬局でパートとして働いています。年に2回北里同級生数人と会い情報交換しています。その会も来年で30年になり、私たちの仲の良さを感じています(平成元年卒業)。

堤 礼子 (1999PP) : (株)リーフオーロラ薬局勤務

藤田 朋恵 (1991MM) : 獨協医科大学に勤め始め1年半経ちました。大分慣れました。

滝 龍雄 (1971HH) : 今年は白金のキャンパスで古稀クラス会があります。同級生も少しずつ減っていますが、Poliki Poliki (バスク語で「ゆっくり、ゆっくり」とのんびりしたいですね。

宮澤 俊輔 (2000HC) : 2017.10月に神奈川(北里大学担当)から異動しました。宜しくお祈りします。

宮本 裕子 (1981PT) : 調剤薬局の薬局長として、忙しい日々を過ごしています。宇都宮に住んで30年です。いつも企画していただきありがとうございます。

皆様にお会いできるのを、楽しみにしています。

浅野 敏一 (1992PT) : 当日、仕事の為、遅れる可能性がありますので、宜しくお祈りします。

大木 美智子 (1979PP) : いつもお世話になっております。毎回欠席で申し訳ありません。只今、保護司として活動中です。研修や対象者との面接、中学校での広報活動、駅前での活動等、年間を通してたくさんの事業があり、楽しい活動です。ボランティアですが社会的責任の重さを感じています。

泉 聡美 (2006PP) : 檀原先生は私のゼミの教授でした。7月7日は万難を排して参加します。

中佐 絃子 (2012VA) : ご無沙汰しております。全く支部会には参加できていませんが、お知らせは拝見しています。機会があれば、福島競馬場観戦ツアーなど興味深いので参加させていただきたいです。

福井 和夫・えみ子 (1985VZ) : 私用により参加できません事を申し訳なく思っております。

盛会となりますこと、お祈り申し上げます。

竹澤 友紀子 (1991VV) : 今回は次男が受験生でバタバタしているため残念ですが新年会は欠席させていただきます。

川子 博己 (1981HI) : 今年還暦を迎えました。頭はすっかり淋しくなりましたが、体の方は毎日筋トレ、ストレッチに励んでおります。休日は、ロードバイクやスキーで気分爽快。人生これからですね!!

佐藤 昭彦 (1979HH) : 私は現在、栃木県で最古、一番古い栃木合唱団のバスパートで毎週楽しく合唱の練習をしています。

一昨年、栃木合唱団は創立 60 周年を迎え、ヘンデル「メサイヤ」、モーツァルト編曲を栃木市近郊の合唱を愛する方々とともに歌う事が出来ました。この栃木合唱団はモーツァルト誕生 200 年の年に出来た合唱団で一昨年の創立 60 周年記念の定演は丁度モーツァルト生誕 260 周年となります。また指揮者 (女性) は数年前に日本歌曲のコンクールで日本一になった方です。今後も生涯現役の臨床検査技師として、また合唱団員として楽しみたいと考えています。

「教員から博物館の学芸員になって」 北里大学水産学部 2002年卒業生 坂井 広人

私は、北里大学水産学部の三陸キャンパスで充実した大学生活を送った後に、2002 年 4 月から北海道大学大学院理学研究科へ進学しました。大学院では植物プランクトンである渦鞭毛藻類 (うずべんもうそうるい) の葉緑体の共生進化に関する研究をしました。学部の時とは研究内容が変わったため、実験が思うようにいかず失敗の連続でしたが、半年が経過した時、観察が成功し、渦鞭毛藻類の眼点の分裂過程を明らかにするという世界初の結果を出すことができました。この成果が教授や先輩達に認められ、研究成果を次々に出すことができました。南アフリカから送ってもらった海水からは新種を発見し、その新種に *Durinskia capensis* Sakai という学名を付けることができました。

大学院を卒業し、2005 年から高校の理科教員として、栃木県内の農業高校での勤務が始まりました。この高校は教育困難校で、日々、生徒達と理解し合うことができず、様々な場面で衝突がありましたが、3 年間担任したクラスの生徒達を無事に卒業させることができました。2009 年、栃木県南部の進学高校への異動がありました。部活動は偶然にも生物部の顧問になり、2010 年から「学校内のクマムシ」の調査ということで、本格的に研究が始まりました。初めは乗り気ではなかった部員達も互いに協力し合い、実験結果をもとにデータをまとめ、研究成果を読売新聞社主催日本学生科学賞栃木県展覧会に出展しました。2010 年、2011 年は 2 年連続で優秀賞を受賞し、2012 年、2013 年は 2 年連続で最優秀賞を受賞することができました。研究成果が社会的に認められて生徒達と共に喜びました。

予期していなかった異動で、2014 年から宇都宮市にある栃木県立博物館で学芸員として働いています。博物館では私の専門分野外の地衣類、菌類 (キノコ)、変形菌類、蘚苔 (せんたい) 類の担当になりました。異動当初は色々な面で苦労しましたが、2015 年から 2017 年までの地衣類の調査結果を 2017 年夏の日本地衣学会の大

会で発表できました。発表内容は論文として学会誌に掲載される予定です。

私はキノコの研究にも力を入れています。2016 年秋に自身初となる「キノコの不思議」展を開催でき、展示の内容を新聞 (東京新聞、下野新聞)、雑誌 (ニュートン)、テレビ (日テレ、とちぎテレビ、宇都宮ケーブルテレビ) など多くのメディアに取り上げて頂きました。特に反響が大きかったのは、日テレの every の生放送で芸能人の渡辺裕太さんと出演できたことです (図 1)。



図 1. 日テレの every の皆さん

2017 年夏は、故郷の小山市で「キノコの世界」展を開催することができ、両親も喜んでくれました。2017 年冬は「ミクロの世界」展を開催しました。ミクロの世界展の内容を、宇都宮コミュニティ FM ミヤラジで取り上げて頂き、ラジオ番組に生出演し宣伝できました。

博物館では毎月第 3 日曜日に「県博デー」ということで、積極的に楽しいイベントを開催しています。午前中は各種外部団体によるコンサートや発表会、午後は当館学芸員のとおき講座を開催しています。私は電子顕微鏡を使った「ミクロの世界探検」という講座 (年に 6 回程度) を担当しています (図 2)。



図 2. ミクロの世界探検の様子

県博デー以外の日にも、電話予約が必要ですが、野外での観察会 (図 3) や室内での実習 (図 4)、各種講演会などを開催しています。詳しくは栃木県立博物館の HP (www.muse.pref.tochigi.lg.jp) をご覧ください。ぜひご家族と一緒に博物館へお越しください! 教職とは違った博物館という職場で、学校現場では体験できないことをこれからも積極的に学んでいきたいです。



図3. 野外のキノコ観察会の様子



図4. 田んぼの生き物・顕微鏡観察

相模原から栃木に来て

1991年医学部卒 藤田朋恵

1991年に北里大学医学部を卒業しました藤田朋恵と申します。私は、学生、研修医、大学院そして教員生活を母校の相模原キャンパスで過ごしました。1997年～2016年まで薬理学に在職し、馬嶋正隆先生（薬理学教授）、熊谷雄治先生（臨床研究センター教授）両先生のご指導の下、基礎研究と臨床試験の経験を積みました。また、2006年～北里大学在職中まで大内孝文医学部同窓会会長のご指導の下、同窓会理事として会報の編集やメルマガ配信業務を担当いたしました。2016年6月より獨協医科大学薬理学講座の教授職を務めております。この場をお借りしまして、これまでご指導、ご支援を頂きました同窓会の先生方に心より感謝申し上げます。

今回の自己紹介では、同窓会の先生方でお子さんが今後獨協医大へ進学するかもしれない、あるいは現在在学中の場合にご参考になるように、現在の仕事について教育と研究を中心にご紹介いたします。

教育については、大学の授業は基本的に3学期制で、4年生は前期、後期に分けられます。北里大学と同じく出席の評価は厳しく、その科目の全授業回数の3分の1を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失い不合格となります。実習は4年生まで進級するためにすべて合格することが必要です。薬理学教育の中心は3年生の講

義と実習です。それぞれ1学期（4月～6月、定期試験は7月上旬、）と（1時間60分）と2学期（8月末～9月、同10月下旬）にあります。基礎薬理から臨床薬理までを一貫して教育するために、講義、実習を通して薬理作用の仕組み、用量-反応関係、薬効評価、患者-医師間のパートナーシップ形成など、教室の先生方、他大学の先生方のご協力を頂きながら幅広く教えています。



研究については、北里大学在職中からの研究テーマである腎臓のカリクレイン-キニン系の電解質調節の役割に関する研究を続けています。現在麻酔科大学院生とともに薬剤性高カリウム血症発症にカリクレイン-キニン系が関与するかについて動物実験によって調べています。また、大学のカリキュラムの1つに全学年を対象とした「医学研究室配属」という自由選択科目があります。これは学生が希望する講座で実験を行い、それらの学会発表や論文作成を体験するというものです。薬理学講座でも医学研究室配属の学生を受け入れ、薬の生体への効果、副作用に関する研究を体験する機会を作っています。また、薬物治療に関する論文抄読、症例検討の勉強会にも参加できます。

毎年7月下旬に行っているオープンキャンパスについてもご紹介いたします。高校生・受験生が200名程度と同伴者もそれ以上来られます。医師による医学講演、実習体験・見学コース（昨年は臨床・基礎合わせて40コース）、学生食堂での教員との昼食・懇談があり、薬理学講座も実習体験コースを行っています。もしよろしければお子さんと一緒にご参加頂けたら幸いです。

北里大学同窓会栃木県支部の滝龍雄支部長をはじめとして同窓会の皆様にはこれからお世話になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記：栃木県支部が活動を再開して10年となります。多くの会員が参加できるようにと幾つかの企画を継続していますが、中々道半ばですね。新年会の返信ハガキにある近況にお知り合いの方の名前を発見し、支部の存在が身近になって呉れると嬉しいですね。珠には一緒に24時間ワークしませんか？ 滝